



十二支にネコがないのはなぜなの

ネズミにぶつかれて、川に落ちたネコ

これは中国・漢族の物語ですが、ずうっと昔のこと、野原で動物たちがかけっこをすることになりました。そうして、12番めまでに入った者を、十二支に入れようと賢人は考えたのです。やがて、数百の動物たちがスタートしました。もちろん、ネコもウシ、ウサギ、ヘビ、サルなどととも先頭集団にいました。

さて、丸木橋にさしかかったとき、ネコのすぐ後ろを走っていたネズミが「ちょっといたずらしてやろう」と思い、ネコにぶつかっていきました。ネコは思わず足をふみはずして、川の中にドブーンと落ちてしまいました。川に落ちてずぶぬれになったネコは、すぐあとを追いましたが、もう間に合いませんでした。

ネズミにうそを教えられた

別の昔の話です。神さまが動物たちにおふれを出しました。「元日の朝、あいさつにきた者から12番めまでに、1年ずつ、その年の大将にしてやろう」。ところが、ネコはその日を忘れたので、ネズミに聞きに行くと、「二日の朝です」と答えました。

そこで、二日の朝行くと、もう12匹の動物がきたあとで、十二支が決まっており、その中に入れてもらえませんでした。ネコはネズミをうらむようになり、見つけると、かたっぱしからつかまえて、食べるようになりました。（監修・保岡 孝之）

